

社長インタビュー



環境に優しい
循環型社会実現のため、
ユニーは多面的かつ継続的な
環境活動に取り組んでいます。

深刻化する環境破壊に対し、
「食品ノーレジ袋キャンペーン」や
環境を考慮した資材である
「バイオマスプラスチック」の採用などを
はじめとするさまざまな環境活動に
取り組んでいるユニー。
その狙いや見通しについて
佐々木孝治代表取締役社長に
話を聞きました。

ユニー株式会社
代表取締役社長 佐々木孝治

地球温暖化防止のために私達ができること

京都議定書が批准され、いよいよ地球温暖化対策を我々小売業も具体的に取り組み、成果を出すことが求められてきました。店舗を運営するにはエネルギー消費や廃棄物排出などの環境負荷が発生し、また、商品の物流などからも大気汚染や石油資源の消費などの環境負荷が発生します。そして、お買物をしていただいたお客様が持ち帰られてゴミになる、レジ袋や包装容器も環境負荷の原因となります。こうした環境負荷をできるだけ低減するために、ユニーではいろいろな取り組みを実施しています。いくつかの取り組み例を紹介しましょう。

着実に成果を上げているノーレジ袋運動

—— 年間300億枚も流通しているといわれるレジ袋を減らすための取り組みに今年は特に力を入れていますね。

佐々木 レジ袋を減らせば、プラスチックゴミの減量化につながりますし、限りある天然資源の利用抑制にも効果があります。当社では「食品ノーレジ袋キャンペーン」などを通じ、お客様へご協力を呼びかけていますし、食品売場でショッピングバッグの販売もおこなっています。そうしたこともあって今年の当社でのレジ袋辞退率は、食品売場でお買い上げいただいたお客様の約16%に達しました。これをできるだけ早い時期に20%にまでもっていきたいと思っています。

—— レジ袋を有料化しようという動きもありますが…。

佐々木 容器包装リサイクル法の見直しが2006年に行われ、2007年には改正されます。その中に、容器包装の使用抑制に有効な手段のひとつとして、「レジ袋有料化」が検討されています。これは、自治体が主体的に取り組む方向ですが、ユニーは積極的に協力し、レジ袋使用削減に努めます。

